

茨木市立茨木小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった |
| ②A話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ③B書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④C読むこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |
- 問題形式の中では、記述式の設問において、記述に必要な文章力や表現力に課題がある。

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

基本的にどの設問もよくできているが、要約する設問には課題が残る。

分析

概ね全国平均を上回っており、全体的によくできている。

「読むこと」の領域において文章構成「はじめ」「中」「終わり」の理解や、「言語に関する事項」における「漢字」については定着が見られ、読書などの取組で文字にふれることの効果は出ている。一方で、「主語」「述語」「修飾語」の関係については、「漢字の読み書き」に比べて課題があり、このことが、「読むこと」や「書くこと」などの記述に影響を及ぼしている可能性が考えられる。

「書くこと」の領域においては、問題形式の中では「記述式」が、無解答率の割合が高くなる傾向にある。特に、複数の条件を一文にまとめ、つなげる力に課題がある。書く習慣をつける指導が必要であるとともに、複数の条件がクリアできたのか確認したり、文章を要約したりする力をつける必要がある。

終盤の問題になるほど無解答率も上がっている。子どもたちも時間が足りなかったと答えていることから、自分で時間配分したり、問題によってはとばして後で解く判断をしたり、問題を初見で一定程度読みとったりする力にも課題が見える。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 大変良好な結果であった |
| ②B図形 | 良好な結果であった |
| ③C測定 | 良好な結果であった |
| ④C変化と関係 | 大変良好な結果であった |
| ⑤Dデータの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった
大変よくできているが、記述に必要な文章力や表現力に
不十分な点があり、順序立てた説明に課題がある。 |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

分析

全国平均を大きく上回っており、全体的にとってもよくできている。算数を研究してきた成果がでている。

「数と計算」「変化と関係」の領域において、特によくできており、割合や速さなど、数直線で表し考える力が身につき、式の意味をよく理解している。

一方で、他と比べると「図形」領域での課題が見られ、模型などで図形を様々な見方をする等、底辺や高さなどを柔軟に見て、図形を構成する要素に目が向けられるように力をつけていく必要がある。

問題形式では、「記述式」においても大変良好な結果が見られ、問題解決型学習を研究してきた成果が見られている。一方で、記述してはいるものの、正答に結びついてはいない様子も見られる。その誤答例を分析すると、AとBについて説明することで、Cといえる理由になるところが、その片方しか書いていないような不十分な説明になり、誤答となっている。順序をおって説明をしていく力、自分の解答を再度、相手に伝わるように確認する力をつけていく必要がある。また、記述式でも無解答率が高い問題は、問題文が長く、理解できなかったことも考えられる。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

国語も、算数も全体平均を上回っている傾向が続いており、良好な成果が見られている。全体的な平均正答率においても良好な傾向が続いている。

無解答率においても改善が見られており、減少傾向にある。国語においても算数においても問題文が長くなると、無解答率が高くなる傾向が見られる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語においても算数においても学力高位層が年々のびている。一方で学力低位層も少しではあるが減ってきている。

エンパワー層についても、全国平均を下回っており、全体的に見ると、大きく変わりはない。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

- ・魅力ある授業づくりを目指し、45分で何を学ばせるのかを明確にした授業の推進を図る。
- ・「解いてみたい」「考えてみたい」と子どもが主体的に取り組める授業を研究していく。
- ・自分の考えを説明する力を育むとともに、友だちの考えを自分なりに説明できる力をつけるようにしていく。
- ・学年に応じた積み上げができるよう、基礎学力定着への継続的指導を行う。朝の時間などを活用し、毎日小間ずつ繰り返していく。
- ・毎週1回の思考ツールの使い方を学ぶ時間を設定し、思考スキルを磨き、思考を整理する力をつけるとともに、各教科で、どの思考スキルを活用するのか、意識した授業づくりをしていく。
- ・主語述語を意識したり、文のつながりを意識したりして、相手が分かりやすい話し方、書き方を意識づける。
- ・場に応じたふさわしい文末表現、丁寧な文末表現、理由を述べる際の文末表現など、文末まで意識して、表現するように指導していく。
- ・大事なキーワードや学年に応じた形容詞などの修飾語をいれた文づくりを毎日意識して行っていく。
- ・算数において、問題解決型の学習に引き続き取組み、自力解決できた喜びを味合わせられるように授業を組み立てていく。また、図（数直線やテープ図など）のかき方、読み方、を系統立てて指導し、自分で使いこなせる力をつけていく。
- ・授業づくりUDチェック表に基づいた授業づくりを進める。特に、本年度については、取り組む重点項目を学年で統一し、成果ややってみてよかった方法など、委員会で共有する。
- ・授業観察により、授業のつくり方を見直し、実践する。
- ・教材を使い「間違えることはいけないことではない」ということを伝えるとともに、意見を言うときの定型文を用意したり、教員のリアクションを見せたりすることで、子どもがどう返せば良いのかを見て学べるようにする。
- ・ペアワークで、子ども同士が学び合える場を作ったり、相手の意見をもう一度説明する時間をとったりして、友だちの意見を意識し理解を深める場を設定する。
- ・学級会の話し合い活動を通して順序を追って説明をしていく力、相手に伝わるように確認する力を伸ばしていくことも意識して取り組んでいく。
- ・話し合い活動がより高まるように、学級会グッズの充実と各教科と関連付けて、カリマネを行うなどの環境整備していく。
- ・一人一台端末を使用して、個別最適化された学びを追及していく。
- ・読書月間を継続し、朝の本を読む機会を確実にとることで、「本を読む」習慣をつけさせ、文法や、語彙力、表現力などを高めていく。
- ・朝の茨木っ子運動を通して、「脳を活発に活動させること」や、「姿勢保持を意識させること」をねらう。